

朝晩の冷え込みが強まり、虫の音が響き渡るようになり、秋もいよいよ本番を迎えています。一年が巡るのは早いものですが、その繰り返しの中で日々努力を続けることは、簡単なことではありません。今号では、そうした努力を重ね文化振興に貢献し高い評価を得た、豊橋文化賞および豊橋文化奨励賞の受賞者インタビューをはじめ、邦楽大会など様々な事業についてご紹介いたします。

豊橋文化祭2024開会式を開催しました。

令和6年度豊橋文化賞に豊橋落語天狗連（代表 近藤洋二さん）、豊橋文化奨励賞に三河太鼓美友会（家元 久美友恵鼓さん）が選ばれ、表彰されました。

令和6年9月28日（土）、豊橋文化祭の幕開けを飾る豊橋文化祭開会式典が豊橋市公会堂にて開催されました。式典は豊橋落語天狗連の弾家喜苦さんによる太神楽で幕を開け、続いて浅井由崇豊橋市長と高須博久理事長の挨拶が行われました。その後、豊橋文化賞および豊橋文化奨励賞の表彰、さらに地域文化振興活動功労賞や郷土文芸作品入選者の表彰が続き、伊藤篤哉豊橋市議会議長より祝辞をいただきました。

記念公演では、豊橋マンデーナイトジャズオーケストラが「Tennessee Waltz」「Time After Time」「Hey Jude」をはじめ、ボーカルも交えた多彩な楽曲を披露し、多くの来場者とその演奏を楽しみました。



豊橋文化賞、豊橋文化奨励賞 受賞者インタビュー

豊橋文化賞 豊橋落語天狗連

代表の近藤洋二さんにお話を伺いました。

ー 設立の経緯を教えてください。

もともと、僕は愛大の落研出身なんですけど、社会人になると落語を人前でやる機会がないんですね。好きだからしばらくは落語を聞きに行くだけだったんですが、よく通っていたアンクルトムっていうウエスタンバブが松葉町にあって、そこのマスターがまた落語好きで、話しているうちに、落語を教えてくださいよなんていう話になって、教えているうちに今度はちょっと人前でやってみようっていう話になり、それで現在定例開催している月例寄席の先駆けみたいなことを開催したのが最初の活動ですね。1回目は松葉町の“かるとん”っていう店の休みの日を借りて、私とマスターと愛大落研の現役生で開催しました。

豊橋落語天狗連という名前ですが、“天狗連”という言葉は昔から寄席の世界である言葉で、素人がブロを真似しているうちに上手になって天狗になるっていう意味なんですね。でも天狗連という言葉がまだ知られていなかったから“落語”を付けて豊橋落語天狗連としました。今も昔も天狗連からブロになるような人もいっぱいいるんですよ。

ー 設立2年目には公会堂で小市民寄席を開催してますね。

そこがうぬばれというか、たぶん若くて何も考えてなかったんでしょう（笑）。だから最初の頃は集客に苦労しました。いい大人が大学の落研みたいに駅前でビラ配りをしたり、今だから言えますが勝手にビラ貼ってました（笑）、それでもなかなか集まらない。今でも販売は会員の売り手が多いのですが、手売りの場合、当時は買った会員の出番が終わったら義理は果たしたと帰ってしまう人も多くて、だからトリは悲惨なものでしたよ（笑）。

小市民寄席という名称も由来があって、当時は豊橋文化協会で市民寄席というのを7月に開催していて、地方で寄席の形式でブロが来るのは割と珍しかったんですが、それなら自分たちもということで、小市民がやる小さな寄席という意味で“小市民寄席”と命名したんです。当時はメンバーもまだ限られましたから寄席形式は難しかったんですが、体育教師のメンバーは、運動神経いいから傘とか回せるんじゃない？って言って太神楽を担当してもらったり、独学、手作りで作り上げてきた感じです。

そう思うと、ここまでやってこられたのは本当に感慨深いです。全国的にもこれだけ長く続いていて、自分たちが舞台に立ち、しかも大勢のお客さんも来てくれる天狗連の活動はないんじゃないかな。

ー メンバーはどんな方が多いですか？

創設期は5名くらいでしたが、現在は大学生から年金受給者まで30名くらいです。うちは珍しくて落研出身者が少ないんですよ。今は小市民寄席で知って興味をもっ

て入ってくれる人もいます。職業も年代もバラバラ。それでも長く続いてまとまっているのは、うちは未だに会員名簿もなければ、会費も会則もない。誰が偉いとかヒエラルキーもないからかな。また、月例寄席はみんなが顔を合わせる場にもなり、研鑽の場にもなっていて、これを毎月続けているのが大きいんです。実際に人前で場数を踏まなければ上手くなりませし、その機会が定期的にあるのは貴重です。

ー 天狗連メンバーの名前をイベントで目にする機会も多いです。

毎月の「月例寄席」、「小市民寄席」、「新春名人会？」が会としての主な活動ですが、メンバーは個人でいろいろ独自に活動しています。豊橋はもとより全国で活躍する人もいるし、逆に他地域から落語家を招いて落語会を開催するとか、色々な刺激を受けながらメンバーがそれぞれの思いを実現してます。

ー 今後の夢とか目標は何でしょうか？

長生きも芸のうっちゃって言われますが、これだけ長く続けてこられたのはひとえにお客さんの支持があってこそです。これからも精進して、まずは小市民寄席は節目の50回開催を目指してがんばります。これはやっている人間でないと分からないけど、落語は間違いなくやった方が面白いんですよ。もう聞くのと自らやるのでは全く違う体験。ワクワク感、ゾクゾク感はたまらない、みんな一回やってみるといいですよ（笑）。

豊橋文化奨励賞 三河太鼓美友会

家元の久美友恵鼓さん、顧問の久美友鼓水さんにお話を伺いました。

ー 9月には第50回となるおさらい会を開催されたばかりです。長い歴史のある会ですね。

はい、美友会は昭和47年に私の義父である久美友鼓匠が「民謡太鼓美友会」として設立しました。義父はもともと伊藤民謡会で民謡を学んでおり、民謡には伴奏として太鼓が欠かせないと考え、東京へも太鼓を習得しに行きました。そして、民謡の太鼓伴奏だけを抜き出す形で「見て楽しい民謡芸」を掲げて、独自の太鼓道を歩み出しました。

ー おさらい会はいかがでしたか？

節目の第50回となるおさらい会でしたが、皆様多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。毎回そうなのですが、来てくださる方々に楽しんでいただくため、会員の発表はもちろんですが、他にも様々な企画をしていて、今回はフラダンス、新舞踊紅豊会さんの発表、チンドン屋さんも登場し、賑やかに37曲のプログラムを開催できました。実はマジックもやりたかったのですが、時間の都合で無理でした（笑）。

ー 太鼓演奏にも様々な特徴がありますが民謡太鼓というわけですね。

そうですね。そこが最近の和太鼓団体と異なる部分で、私たちの出発点は民謡ですから、メンバーは太鼓を叩くだけでなく全員が民謡も唄えるようにお稽古します。太鼓は力強くリズムに合わせて叩くというより、唄に合わせて叩くのが私たちの特徴です。最初は太鼓だけで入った人も、やっているうちに民謡を唄いたくなってくるんですよ（笑）。民謡は唄うとすごく気持ちがいいですから。

ー 初代家元が義父ということは、恵鼓さんはお嫁さんというわけですね？

ええ、お嫁に来るまで太鼓はやったことがなかったけど、嫁になればやらざるを得ません。でも元々お祭り女で賑やかなことが大好きなので（笑）、お稽古して太鼓の教授、民謡の師範の資格まで取り、会員の皆さんと一緒に楽しく続けることができました。平成18年に二代目家元を襲名し、平成20年に名称を「三河太鼓美友会」へ改称しました。

ー 豊橋祭りや豊橋和太鼓フェスタにも深く関わっていらっしゃいますね。

やはり私たちは、唄に合わせて叩くのが得意ですから、市の関係者から依頼があり豊橋祭りで使用する曲について太鼓演奏用の採譜に取り組みしました。それまでは、同じ曲でも担当する太鼓団体によって演奏が異なり、踊りにくいという意見があったので、そこで新豊橋とんとん唄やマツケンのええじゃないかⅡなど、豊橋まつり総踊りで使用される曲のうち5曲の太鼓採譜を私たちで行いました。今でも使われていて、とてもやりがいのある仕事でした。また、和太鼓フェスタも実行委員会の会長を10年務め、大きなイベントにすることができましたし、10年を目標に若い方にバトンを渡せてよかったと思っています。

ー 現在の活動状況について教えてください。

現在の会員は15名で、お稽古としては東部生涯学習センターで月3回土曜日に、また大崎町の公民館や豊川の御津公民館でもお稽古を行っています。発表としては年1回のおさらい会の開催のほか、邦楽大会や豊橋祭りへの参加、ほの国マラソン大会や二川本陣まつり、市民館まつりでの太鼓演奏、町内祭礼での演奏や地域の子もたちへの演奏指導なども行っています。

ー 今後の目標や夢をお聞かせください。

まずは会員をもっと増やしていきたいと思っています。私たちの太鼓は民謡がベースになりますが、民謡も今は勢いがあるんですが、より若い世代の方々の心に響く民謡太鼓にも取り組んでいきたいです。民謡太鼓は歌って大きな声を出し、太鼓を叩いて身体も使う、健康にもとてもいいはずですよ。定年退職された方でもいまはまだ元気な時代です。第2の人生の取り組みとしては是非一緒にいかがですか？

今号の一枚

まるちあい

タイトル：「Blue」2024年
380×455mm、和紙にジェッ
ソ、アクリル、色鉛筆、水彩

昔の記憶を織り交ぜながら、動物や子供をモチーフに描いています。



展覧会情報 「Lovable 一岩澤奈々 まるちあい 2人展」
11月25日（月）－12月22日（日）アートエイジギャラリー 豊橋市向山西町3-2 東海フレーム2階

第66回 邦楽大会を開催します。

今年の豊橋邦楽大会は、豊橋市民文化会館の改修工事に伴い、12月に豊橋市公会堂、穂の国とよはし芸術劇場で開催します。ぜひご来場ください。

日本舞踊の部

▶開催日時／令和6年12月1日（日）午後0時30分開演 ▶会場／穂の国とよはし芸術劇場主ホール ▶入場料／2,000円 ▶出演団体（順不同）／満帆会、鯉廣会、清歌会、若駒会、藤美会、左門流左門会、花柳芯喜依の会

詩吟の部

▶開催日時／令和6年12月8日（日）午後1時開演 ▶会場／豊橋市公会堂 ▶入場料／1,000円 ▶出演団体／豊橋岳風会、朝翠流朝道吟詠会、朝翠流朝勢吟詠会、不朽流吟詠会、朝翠流照鵬吟詠会、日本壮心流

民謡・大正琴・三味線・太鼓・箏曲・長唄の部

▶開催日時／令和6年12月14日（土）午前10時30分開演 ▶会場／豊橋市公会堂 ▶入場料／1,000円 ▶出演団体／琴修会豊橋東花桃の会、伊藤民謡会、琴城流大正琴振興会豊橋支部、三河太鼓美友会、箏曲加藤信子社中、壁谷和子社中、さくら会、箏曲みどり会、つゆくさの会、箏曲紫雨会、箏曲奥田久子社中

民謡・新舞踊の部

▶開催日時／令和6年12月15日（日）正午開演 ▶会場／豊橋市公会堂 ▶入場料／1,000円 ▶出演団体／邦和会、結月流元佳照会、浅香乃流美よし会、葵民舞研究会、日本民謡研究会東三支部、民謡むらさき会、静岡会、新舞踊紅豊会



気まぐれ VOL.16 プキ旅

日本橋・京橋界隈の“素敵空間” 斧路朱音

私が生まれた年（1952年）に開館した『ブリヂストン美術館』が2020年1月にARTとHORIZONを組み合わせた造語を採用し、時代を切り開くアートの地平を感じて欲しいとの願いを込め「アーティゾン美術館」として新しく生まれ変わった。コンセプトは“創造の体感”…従来の印象派や近代日本洋画に加え、新たに戦後現代美術の強化をはかるなどコレクションの幅と厚みを増していくといふ。

白とグレーに統一された館内は、すっきりとモダンでありながら、居心地が良い。特徴的なのは、作家の来歴や作品の内容を紹介するパネルやキャプションは、いっさい見当たらず、小さく番号が記されているのみ…先入観無しに作品そのものをじっくりと鑑賞して欲しいという意図が感じ取れる。作品の情報を詳しく知りたければ、用意されたリストで確認できるという趣向だ。

ロダンやブールデルのブロンズにはじまり、モネやセザンヌの油彩画、黒田清輝や岸田劉生の近代日本洋画へと続く。なかでも圧巻は青木繁の《海の幸》（重要文化財）…何度見てもため息が出る。

石橋財団が経営する大型美術館も魅力的だが、日本橋・京橋界隈には、個人経営の画廊も多く存在する。とりわけ友人が10月22日から11月1日にかけて個展を開催する『日本画廊』は7年程前に改装され、随分オシャレになった…京橋からは、右

手に『日本橋高島屋』を見ながら「丸善」手前を左折し、「星野真吾賞展」受賞作家など新進作家を積極的にフォローする『アンペルギャラリー』の角を曲ると右手が入口で、裸婦のオブジェ（ブロンズ製）を取っ手にした扉が目印…友人の話では、15年間描き溜めた作



品の中から《顔》にフォーカスしたものを選抜し、“面噺（つらばなし）”と題して展示するらしい。

ちょっとキモカワで個性的な世界を楽しんだあとは、お得なランチで締め括りたい。五街道の起点＜日本橋＞を渡り、しばらく歩くと話題の『COREDO室町』が見えてくる。前回訪れた時は、穴子料理の名店『日本橋玉ゐ』で《穴子ちらし》を堪能したが、今回は格安天井で人気を博し、話題を集めた“料理の風雲児”が開いた新業態の店舗『稲庭うどんめし・金子半之助』に決めている。店内には大きな暖簾が掛かり、無駄のない清潔な空間がひろがる。ここは“稲庭うどん”がメインで、それにどんな“めし”を組み合わせるかが、悩ましい。日本橋『つじ半』で提供される《ぜいたくめし》や《高菜めし》も捨てがたいが、やはり一番人気の《天ばらめし》にしよう。テーブル上には6種類（温玉・わかめ・かす・がりごぼう・とろろ昆布・山菜）の無料トッピングサービスがあるなど至れり尽くせり。日本橋・京橋界隈には、新しいアートや特製ランチが堪能できる“素敵空間”が続々と誕生している。



催し物スケジュール 11-12月

11月	豊橋ウインドアンサンブル 第36回プロムナードコンサート 時間／13時30分開演 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 入場料／無料 内容／ポピュラーミュージックをメインとした吹奏楽の発表会。テーマは「映画・TVで振り返るオリムピックイヤー」 豊橋茶道クラブ月例会茶会 (担当:表千家白流) 時間／9時30分から 会場／豊橋市三の丸会館 会費／一般750円、会員650円 (事前予約制) 生田流箏曲峰と海の会 箏の調べ 箏と三絃の発表会 時間／13時30分～ 会場／豊橋市三の丸会館 入場料／無料 第50回豊橋音楽連盟コンサート 新たな未来へつなぐ ～音楽のかけ橋～ 時間／14時開演 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 入場料／1,000円 内容／豊橋音楽連盟会員と門下生によるクラシックコンサート 裏千家六日会月釜 時間／10時～ 場所／豊橋市三の丸会館 会費／900円 (一般参加可) 担当／清水宗苗 第10回鳥倉千代子さんを偲んで追悼コンサート 時間／14時開演 会場／豊橋市公会堂 入場料／1,500円 内容／鳥倉千代子さんのヒット曲の数々をバンド生演奏でお届け 霜月の午後、長唄、日本舞踊、端唄、落語と日本の芸能を堪能しませんか？ 時間／13時30分開演 会場／穂の国とよはし芸術劇場アートスペース 入場料／1,800円 出演／落語:成田家紫蝶、鶴橋減減減 長唄:村屋勝彦、村屋勝奈栄 日本舞踊:西川満翠 端唄:東山さくら 澄心会書道 10日 (日) まで 時間／9時～17時 (8日は10時～、10日は16時まで) 会場／豊橋市民文化会館第二展示室 入場料／無料 内容／第49回澄心会書道展 第53回澄心会ジュニア展 TFM合唱団第35回記念演奏会 時間／14時開演 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 入場料／一般1,500円、高校生以下500円 内容／田島佑一委嘱作品 (初演)混声合唱組曲「季節は僕らの頬を掠め」、猿楽談義《翁》風姿花伝による混声合唱のための5つのタブロー、ポピュラスステージ、宗教曲ステージを演奏 第54回豊舞連舞踊フェスティバル 時間／11時開演 会場／豊橋市公会堂 入場料／無料 内容／豊橋舞踊連盟による合同舞踊発表 フォトサークル東風写真展 17日 (日) まで 時間／9時～17時 会場／豊橋市民文化会館2F展示室 入場料／無料 内容／フォトサークル東風会員による写真展示 第54回コーラスのつどい 時間／13時開演 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 入場料／無料 内容／市内で活動する12のコーラスクループによる合同発表会 MOA美術館 豊橋児童作品展 17日 (日) まで 時間／9時30分～17時 会場／こども未来館ここにこ 入場料／無料 内容／豊橋市内の小学生を対象とした、絵画と書写の作品展 第8回箏曲 紫雨会「演遊会」 時間／13時開演 会場／豊橋市三の丸会館 入場料／無料 内容／住吉社中による成果発表会。合奏、三絃・十七弦・尺八との合奏で三曲演奏の魅力をお届け。尺八演奏ゲスト:加藤泰山 演目:春の訪れ、祭花、他12曲を予定 小原流豊橋支部 花の輪・人の輪・みんなの花展 ～花ひらけ未来 PARTⅢ 17日 (日) まで 時間／10時～17時 (17日は16時半まで) 会場／CAFÉ&GALERIEちろる庵 入場料／無料 日曜短歌会 時間／13時～ 会場／豊橋市民文化会館 第1会議室 第33回 吉田文楽保存会定期公演 時間／13時30分開演 会場／豊橋市公会堂 入場料／無料 内容／吉田文楽保存会による市指定無形民俗文化財「飽海人形浄瑠璃」の公演 ええじゃないか!豊橋和太鼓フェスタ「響」2024 時間／11時30分開演予定 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 内容／豊橋を中心に各地区で活躍する和太鼓演奏団体、約25団体による合同発表会 グローリアコンサート Vol.3 時間／14時開演 会場／穂の国とよはし芸術劇場アートスペース 入場料／一般3,000円 高校生以下1,500円 内容／声楽・ピアノ・チェロのコンサート 水曜短歌会 時間／13時～ 会場／豊橋市民文化会館 第1会議室 豊橋ハーモニカ愛好会 交歓演奏会 時間／12時30分開演 会場／豊橋市公会堂 入場料／無料 内容／ハーモニカ演奏、ハーモニカ合奏などでハーモニカの魅力を発信 秋の夜長の音楽会 時間／19時開演 会場／豊橋市三の丸会館 入場料／2,000円 他 第5回青い花二胡楽団定期演奏会 時間／13時30分開演 会場／豊橋市公会堂 入場料／1,000円 内容／二胡奏者Nancy+なんしい監修の青い花二胡楽団による毎年恒例の定期演奏会 愛知大学吹奏楽団 第57回定期演奏会 時間／16時30分開演 会場／アイブラザ豊橋 入場料／当日500円、前売400円、小学生以下無料 内容／Iマーチング、IIシンフォニック、IIIポップスの3部構成でコンサートを開催 豊橋マンデナナイトジャズオーケストラ 第36回定期コンサート 時間／16時30分開演 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 入場料／無料 内容／カウントベイスン楽団を主にビッグバンドの楽曲を演奏 花柳こども舞踊教室発表会 時間／11時開演 会場／豊橋市公会堂 入場料／無料 内容／舞踊教室の幼稚園児、小学生、中学生が出演。演目:雨降りお月さん、お花畑、菊づくし、羽根の禿 他 第5回豊橋バレエフェスティバル 時間／13時30分開演 会場／穂の国とよはし芸術劇場主ホール 入場料／2,000円 内容／6団体によるクラシックバレエの公演
3日 (日)	
4日 (月・休)	
6日 (水)	
8日 (金)	
10日 (日)	
11日 (月)	
12日 (火)	
13日 (水)	
14日 (木)	
16日 (土)	
17日 (日)	
20日 (水)	
21日 (木)	
23日 (土)	
24日 (日)	

12月	第66回豊橋邦楽大会 日本舞踊の部 時間／午後0時30分開演 会場／穂の国とよはし芸術劇場主ホール 内容／日本舞踊9番組の発表 豊橋茶道クラブ月例会茶会 (担当:表千家清和会) 時間／10時～14時30分 会場／豊橋市三の丸会館 会費／一般750円、会員650円 (事前予約なし) 裏千家六日会月釜 時間／10時～ 場所／豊橋市三の丸会館 会費／900円 (一般参加可) 担当／河原崎宗妙 高文連東三河支部「高校生の写真展」 時間／9時～17時 会場／豊橋市民文化会館2F展示室 入場料／無料 とよはし歴史群像劇「海に生きる」公演 時間／第1回目:11時開演、第2回目:16時開演 会場／穂の国とよはし芸術劇場主ホール 入場料／S席4,000円、A席 (大人) 2,500円、A席 (子供) 1,000円 内容／豊橋の基盤となる三河港開発の歴史を、市民の手による創作劇として公演
1日 (日)	
6日 (金)	
7日 (土)	

文化短信

▼豊橋文化短歌会
八月日曜短歌会
シルバール川柳なつるほど成る程
それは無い老いに歯老いの矜持
ありたり
夜八時揚げ物セツトも弁当も
半額となり我買ひにけり
小池保利
聴覚の衰え感じる日々となり
朗読会は前列の席
伊藤はつる
花は散り九つ穴の穴空に向け連
華は地中に光通信
西郷賢谷
地下駅に迷ひてうれば声かけ
くれし人東京に二人居りたり
池田あつ子
姫路駅はるか離れた書写山の
ふもとに茶店 御座候。
宮本啓子
もの事は否応なくもなくすみ
行き私は私のあるがまんまに
岩瀬美子
豊饒に食べに行こうと夫は言い
娘はケーキわが誕生日
成瀬眞智子
八月水曜短歌会
色彩も仮名のかたちも忘れた
と中途失明の友はさりとて
夏目伊代子
憧れの人にフォロワーバックされて
いてなんだか少し誇らしくな

▼市民俳句会
第六七五回句会
炎天といふ大敵に拳上ぐ
後藤青海人
総身に山の鼓動や滝しびき
佐藤英子
川鏝鈔利に咬まして三尺寝
大河美智子
古里を訪へば変らぬ蟬の声
鳥居節子
木浅日に碑の文字揺れる竹の
加藤美津子
雨蛙子の手の平にすまし顔
河合澄子
▼市民俳句会
第六七六回句会
森閑と境界集落星月夜
大河美智子
齒科の椅子倒されしまま鵬高
佐藤英子
信濃路の水に持て成す冷奴
鳥居節子
残り蚊を木魚を叩き逃しをり
後藤青海人
朝露の光あふるる花時計
加藤美津子
恐竜の化石息づく星月夜
河合澄子

8日 (日)	豊橋交響楽団第132回定期演奏会 時間／14時開演 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 入場料／一般2,000円、小中高生500円 第66回豊橋邦楽大会 詩吟の部 時間／13時開演 会場／豊橋市公会堂 内容／6団体による詩吟の発表 豊橋茶道クラブ総会 時間／11時～ (役員会は10時～) 会場／豊橋市三の丸会館 クリスマス・アヴェ・マリア 時間／13時開演 会場／ライフポートとよはしコンサートホール 入場料／4,900円 内容／ウィーン室内弦楽オーケストラとソプラノ歌手2名による、クラシックコンサート 第66回豊橋邦楽大会 民謡・大正琴・三味線・太鼓・箏曲・長唄の部 時間／午前10時30分開演 会場／豊橋市公会堂 内容／11団体による民謡、箏曲などの発表 劇団「第五会議室」第9回公演「バンカラマントのナポレオン」 15日 (日) まで 時間／14日:14時開演、18時30分開演 15日:13時開演 会場／穂の国とよはし芸術劇場アートスペース 入場料／一般3,000円、高校生以下1,500円 内容／演劇の公演「バンカラマントのナポレオン」作・演出:小山真史 第66回豊橋邦楽大会 民謡・新舞踊の部 時間／正午開演 会場／豊橋市公会堂 内容／8団体による民謡、新舞踊の発表 日曜短歌会 時間／13時～ 会場／豊橋市民文化会館 第1会議室 水曜短歌会 時間／13時～ 会場／豊橋市民文化会館 第1会議室 Musical「Fairy Tales」～クララのアドベントカレンダー～ 22日 (日) まで 時間／両日13時開演、17時開演 会場／穂の国とよはし芸術劇場主ホール 入場料／S席5,000円、A席4,000円、18歳以下3,000円 内容／映像と歌とダンスのオリジナルミュージカル
12日 (木)	
14日 (土)	
15日 (日)	
18日 (水)	
21日 (土)	

第50回豊橋音楽連盟コンサート

新たな未来へつなぐ～音楽のかけ橋～

豊橋音楽連盟会員と門下生によるクラシックコンサート。ピアノ、声楽、管楽器、マリンバなどのソロ、アンサンブル演奏の他、豊橋交響楽団の弦楽器有志メンバーを迎えて、動物の謝肉祭室内楽バージョンなどをお届けします。
日時／11月4日 (月・休) 午後2時開演 (午後1時30分開場)
会場／ライフポートとよはしコンサートホール
入場料／一般1,000円 チケット取扱い／穂の国とよはし芸術劇場1F窓口、豊橋市民文化会館

第54回コーラスのつどい

入場無料

日時／11月13日 (水) 午後1時開演 (午後0時30分開場)
会場／ライフポートとよはしコンサートホール 演奏曲目を随時更新▶
出演団体 (出演順)／①コーラスCHUBU ②ハッピースマイル ③いまはし ④豊橋女声コーラス ⑤WISH ⑥コーロ・ソアラヴェ ⑦コーラス若草 ⑧コーラスのぎく ⑨ハーモニー・グリーン ⑩コーラスてんとうむし ⑪多米コーラス ⑫コール・シャロン 入場料／無料



豊橋市指定無形民俗文化財飽海人形浄瑠璃

第33回吉田文楽保存会定期公演

入場無料

前回に引き続き、豊橋市に伝わる民話「おろ橋」を題材にしたオリジナル演目「おろ橋心中おろ橋の段」を吉田文楽保存会による素瑠璃 (太夫・三味線のみ) で披露します。
日時／11月17日 (日) 午後1時30分開演 (午後1時開場) 会場／豊橋市公会堂
特別出演／太夫＝竹本友代 (重要無形文化財「義太夫節」総合認定保持者)、令和4年「文化庁長官賞」受賞)、三味線＝鶴澤友輔 (阿波人形浄瑠璃振興会友輔会主宰、令和元年「モラエス賞特別賞」受賞)
演目／「二人三番叟」、素浄瑠璃「おろ橋心中 おろ橋の段」、「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」 入場料／無料

秋の夜長の音楽会 2024.

豊橋市三の丸会館 11.21 Thu 午後7時開演 (開場は30分前)

◆出演 鈴木雅子 (電子ピアノ) 田茂井晋裕 (ギター) 平野とも子 (うた、朗読)
◆曲目 武満徹作品集からビートルズまで
音楽を交えた大人の絵本の朗読も行います。
▼入場料／一般2,000円、高校生以下1,000円
▼チケット発売／豊橋市三の丸会館、豊橋市民文化会館事務所で販売しています。豊橋市三の丸会館ホームページからもご購入いただけます。

創立60周年記念シリーズ

第132回豊橋交響楽団定期演奏会

～名曲で振り返る 豊響60年の軌跡 未来への輝石～

日時／12月8日 (日) 午後2時開演 (午後1時15分開場)
会場／ライフポートとよはしコンサートホール
演奏曲目／「ジャングル大帝」から「ジャングルの朝～動物たちの集い」 (富田 勲)、ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲イ短調, op.102 (ブラームス)、バレエ組曲「火の鳥」 (1919年版) (ストラビンスキー)、スラブ行進曲 (チャイコフスキー)、組曲「カルメン」から「間奏曲」「闘牛士」「ジプシーの踊り」、リンゴ追分 (米山正夫作 吉田道雄編)
指揮／下谷剛嗣 (豊響音楽監督) ソリスト／兵藤雅晃 (チェロ)、成田萌 (ヴァイオリン)
入場料／一般2,000円、小中高生500円 チケット取扱い／穂の国とよはし芸術劇場1F窓口、豊橋市民文化会館、ライフポートとよはし総合案内所、豊橋交響楽団ホームページ

じりじりりと体を突き刺す陽の暑さ縄張守る鶴の声する

内藤よし胡

ネガのましましむ忘れてゐたやうな思ひ出ひとつ友に告げらる

比べるな あばら出する母の胸わが身育てた若き乳房と

前田哲宏

熱燗の(鳳来泉)に満たされて姉と長夜を湯谷の古宿

長谷川公代

夕暮れにむくとり群れてにぎやかな家族だららん我ひとりな

杉本エミ子

タイムイズならこの待ち身分ハ

ウマツチ毎日日曜日の身分ハ

西郷賢谷

からからの庭にシャワーの雨降らせ炎暑をばぐすひとときの

原田敬子

涼

コーヒーの香り豊かに向かい合う雑誌片手に話さぬ夫婦

天野富士子

みづつこの木肌にそとと触れてみる銀杏は立ちたり 36℃

室 澄子

「きれいだな」モノの池畔で言つた亡夫十年(と)とせ過ぎしも忘れぬ夏

鈴木ものり

テレビからの世界情勢聴きながら針あそばせてぞうきんを縫う

岩瀬美子

新聞の本の広告魅力的のこりゃあ買わねば本屋に走る

成瀬眞智子